

◆朋栄：オンラインイベント「CONNECT Vol.2 オンライン」を2021年12月15日（水）～17日（金）に参加無料にて開催した。

同イベントでは、同社の目指すIP/クラウドを活用する次世代制作環境についてプレゼンテーションし、「イベントプレーヤー」「RCG・バーチャル連携」「スローモーション映像生成」など最新製品/ソリューションを紹介した。

■ FOR-A CONNECT Vol.2 オンライン内容 3日間共通プレゼンテーション「朋栄が創造するIP/クラウド環境の未来」SDIとIPが混在する制作環境の中で、朋栄はお客様が必要に応じて両環境を選択でき、将来はIP環境にスムーズに移行できる製品を提供。

IP/クラウド環境の活用を進め、各種信号処理をソフトウェア化する「ソフトウェアデファインド」により、各種機器の柔軟な機能拡張を実現。映像制作全体に関わる機器を、包括して提供している朋栄だからこそ出来る、次世代環境への取り組みを紹介。

■ 12月15日（水）

● イベントプレーヤー IEP-500（朋栄 IBE）：

映像・静止画・音声ファイルを再生するPCベースの再生装置。スタジオやホールでのイベント映像送出に便利な機能を搭載



● マルチビューワー MV-1640IP & MV-3240：

IP・SDI混在運用が可能なMV-1640IPと、市場ニーズの多い1RU SDI32入力を実現したMV-3240を紹介

● マルチチャンネルシグナルプロセッサ FA-1616：

運用に合わせた機能をソフトウェアベースで追加可能にするソフトウェアデファインドを実現

■ 12月16日（木）

● 簡易バーチャルシステム Unity × 3D アバター × RCG：

作画装置 (EzV-410)、CG生成 (Unity 送出ソフト)、Calibration (if-Calib2) の要素で構成される、Unity エンジンを使った、朋栄が提唱する新しい簡易バーチャルシステム

		12/15 Wed	12/16 Thu	12/17 Fri
13:00-13:30	メインプレゼンテーション	朋栄が目指すIP/クラウド映像制作の未来		
13:30-14:00	ライブプレゼンテーション	イベントプレーヤー IEP-500	簡易バーチャルシステム Unity×3Dアバター×RCG	スローモーション映像生成技術 SMV-ONE
14:15-14:45	ソリューション紹介	マルチビューワー MV-1640IP & MV-3240	新ルーティングスイッチャー MFR-3100EX	マルチチャンネルシグナルプロセッサ FA-1616
14:45-15:15		マルチチャンネルシグナルプロセッサ FA-1616	朋栄エレテックス 主要製品紹介・ERS-44MF実機紹介	新ルーティングスイッチャー MFR-3100EX



● 新ルーティングスイッチャー MFR-3100 EX：

従来のMFRシリーズの機能を完全踏襲しつつ、ルーター機能、ビデオスイッチャー機能の制御など新たな「EX（エクспанション）」機能を追加

● 朋栄エレテックス主要製品紹介・ERS-44MF 実機紹介：

「あったらいいな」をコンセプトに、朋栄製品にはない性能や用途の製品を多数リリースする朋栄エレテックス。製品ラインアップと、本年9月にリリースした多機能マルチビットレートルーティングスイッチャー ERS-44MF を紹介

■ 12月17日（金）

● スーパースロー映像生成技術 SMV-ONE：

スポーツ中継時や報道でのスロー映像を擬似的に作り出すスローモーションビジュアライザー。スローモーション映像を専用カメラを使わずに生成

● マルチチャンネルシグナルプロセッサ FA-1616

● 新ルーティングスイッチャー MFR-3100EX

◆シキノハイテック・ソシオネクスト：HD-PLC 第4世代規格 IEEE1901-2020 に準拠した 電力線通信モジュールを試作

小型化・低消費電力化で IoT 通信アプリケーションの拡大に貢献

株式会社シキノハイテックと株式会社ソシオネクストは、電力線通信技術 HD-PLC の第 4 世代となる国際標準規格 IEEE1901-2020 に準拠した LSI「SC1320A」を搭載する通信用モジュール「P-TMFSU-041」を試作し、その動作を確認したことを発表する。両社は今後、同モジュールの実用化と量産に向けた協業を継続し、HD-PLC の本格的な普及と市場の拡大を目指す。両社は 12 月 6 日（月）より東京ビッグサイトで開催される展示会「スマートビルディング EXPO (<https://www.smartbuilding.jp/ja-jp.html>)」の HD-PLC アライアンスのブースにて、今回試作したモジュール「P-TMFSU-041」および搭載 LSI「SC1320A」の紹介する。

IEEE1901-2020 は従来技術に対し、より長距離の通信を可能とする 1/2、1/4 モードを有しており、マルチホップ技術による最大 10km の通信を可能にし、より幅広い分野での活用促進が期待されている。

ソシオネクストは、パナソニック株式会社がライセンス提供する IEEE1901-2020 準拠の半導体設計用 IP コア「HD-PLC」を採用した世界最初の LSI となる SC1320A を開発した。ソシオネクストが強みを持つ信号処理技術と回路設計技術により、HD-PLC の特長を活かしながら低消費電力（200mW）、3.3V 単一電源と小型パッケージ（7mmx7mm）による省スペース化などを実現した。SC1320A は現在サンプルの提供中で、量産の開始は 2022 年第 3 四半期を予定している。



SC1320 A 搭載 P TMFSU 041

シキノハイテックはこれまで組み込み機器などの IoT 通信に向けた PLC 通信モジュールの開発、製造と販売を行ってきた。

今回、SC1320A を採用した HD-PLC 第 4 世代規格 通信モジュール P-TMFSU-041 で電力線など既設配線を利用して高速データ通信が可能になる。既存の配線を利用することで新たに通信用ケーブルを敷設することなく有線ネットワークの構築を可能にする。マルチホップ機能を搭載しており複数の PLC モジュールを中継して通信距離を延ばすことができるため、長距離通信が必要な工場・ビルや建設現場など幅広いシーンでの導入が可能。本製品を使った通信は、データの暗号機能に加えてモジュール間の伝送路状態をダイナミックに判別する機能も搭載している事から高いセキュリティ性を保持している。モジュール形状は小型で複数の線材形

状にも対応するため、既設配線を利用している高速通信機器へも容易に組み込みが可能となる。なお今回試作した通信モジュールは 2022 年度の商品化を目指し評価と開発を継続するとしている。

ソシオネクストとシキノハイテックは「HD-PLC アライアンス」のメンバーとして今後も密接な協力を継続し、単体 LSI、通信モジュールの提供に加えて HD-PLC を活用する様々なアプリケーションを提案し、同技術の普及と市場の拡大に貢献していく。

シキノハイテック製 通信モジュール「P-TMFSU-041」概要

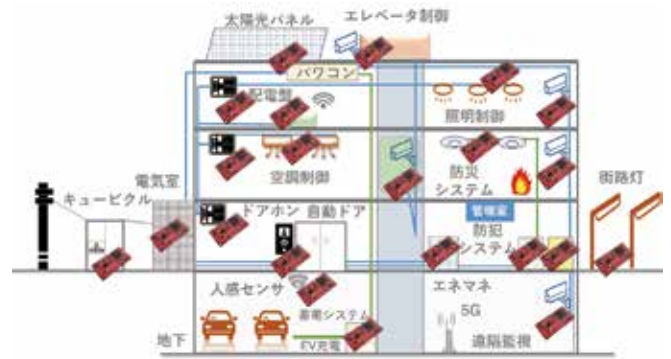
https://www.shikino.co.jp/products/P-TMFSU-041_specifications.pdf

ソシオネクスト製「HD-PLC」通信用 LSI「SC1320A」製品情報

<https://www.socionext.com/jp/products/assp/HD-PLC/>

「HD-PLC IP」コアについて（パナソニック株式会社）

<https://www.panasonic.com/global/business/hd-plc/ja.html>



アプリケーション例：スマートビルディング

ソシオネクストについて

株式会社ソシオネクスト (Socionext Inc.) は、SoC (System-on-Chip) の設計・開発および販売を事業とするグローバル企業。コンシューマー、オートモーティブおよびインダストリアル分野における世界トップレベルの技術を核に、今日のさまざまなアプリケーションの進化を支えます。長年培った技術力と経験、さらに豊富な IP ラインナップをベースに卓越したソリューションを提供し、人々の豊かな体験 = "better quality of experience" の実現に貢献します。2015 年に設立された株式会社ソシオネクストは横浜市に本社を置き、日本国内、アジア、米国およびヨーロッパの各拠点において製品開発および販売活動をグローバルに展開しています。

詳しくは <https://www.socionext.com/jp/> をご覧ください。

シキノハイテックについて

株式会社シキノハイテック (Shikino High-Tech Co., Ltd.) は、車載半導体に温度などの負荷をかける検査装置 (バーンイン装置) や産業向け専用計測機器の開発・生産、電気機器向けカメラモジュールの開発・生産、アナログ/デジタル LSI の回路設計の受託を事業の中心とした企業です。スマートフォンのカメラ機能の高度化や、車のネット接続や自動運転化など、IoT 化を追い風とし、多様なアイデアや高い技術力をもとに開発から自社でのモノづくりまで手掛ける「One Stop Solution」を高品位に実現します。1975 年に設立された株式会社シキノハイテックは富山県魚津市の本社・工場を中心に、顧客対応の最前線に九州事業所を配置。東京、大阪、福岡の各拠点デザインセンターにエンジニアを配置し、製品開発および販売活動を展開しています。

詳しくは <https://www.shikino.co.jp/> をご覧ください。

記載されている会社名、製品名などの固有名詞は、各社の商標または登録商標です。プレスリリースに記載された内容は 発表日現在のものです。その後予告なしに変更されることがあります。あらかじめご了承ください。

◆アストロデザイン：8K 小型カメラヘッドと CCU 間を光ファイバーで最大 2km 伝送 マルチパーパスカメラ用 光伝送装置 OT 5902/ OR 5903 を発売



アストロデザイン株式会社（本社東京都大田区、代表取締役社長：鈴木 茂昭、以下アストロデザイン）は、アストロデザイン製 8K マルチパーパスカメラのカメラヘッド AB-4830 と CCU AC-4829 間を光ファイバーで接続するための光伝送装置 OT-5902/ OR-5903 を発売する。

アストロデザインの 8K マルチパーパスカメラは、グローバルシャッターのカメラセンサーを搭載したファンレス・軽量・小型の 8K カメラシステムです。カメラヘッドと CCU 間は、USB TypeC ケーブル使用時に 2m、Display Port active ケーブル使用時に最大 100m まで離すことができます。今回新たに発売する OT-5902/OR-5903 を使用することで、カメラヘッドと CCU 間を最大 2km まで光ファイバーで伝送可能となる。お天気カメラ、監視システム、有線ドローン撮影、ワイヤードカメラ、オーケストラなど、様々な場面においてより柔軟な 8K 撮影を行うことができるとしている。

◆Blackmagic Design：アストロデザイン、中継車「オフグリッドスタジオ ATOM' S」に Blackmagic ワークフローを採用



Blackmagic Design は、アストロデザイン株式会社が企画、開発した中継車「オフグリッドスタジオ ATOM' S」に Blackmagic Pocket Cinema Camera 6K や ATEM Television Studio 4K など、数多くの Blackmagic 製品が採用されたことを発表した。オフグリッドスタジオ ATOM' S はトヨタのランドク

特長

- ・ AB-4830 と AC-4829 間を光変換し最大 2km まで伝送可能
- ・ AB-4830 と同様のファンレス設計により、オーケストラや演劇舞台等、静音環境での運用に最適
- ・ カメラリモートコントローラ RB-4816-2 により、マイクロフォーサーズレンズはもちろん、ARIB TR-837 デジタルコマンド対応レンズの制御にも対応

製品情報

https://www.astrodesign.co.jp/product/ot_5902_or_5903

型名：OT-5902 /OR-5903 発売日 2021 年 12 月

定価（税込み）1,056,000 円

※ OT-5902 と OR-5903 のセット価格。

www.astrodesign.co.jp

アストロデザイン株式会社：超高精細映像技術、リアルタイム高速デジタル信号処理技術をベースに、8K をはじめとする高度な技術を要する分野において、さまざまなハードウェア/ソフトウェア製品を展開。放送業界やディスプレイ業界など映像業界全般において、オンリーワンの製品を提供し続ける。

【製品に関する問い合わせ先】

〒145-0066 東京都大田区南雪谷 1-5-2

アストロデザイン株式会社 事業本部（営業）

TEL:03-5734-6301 FAX:03-5734-6102

ルーザーをベースに作られており、収録、編集、配信全てのワークフローが車内に備わっており、放送局や YouTuber など幅広いユーザー層が使用できるものとなっている。

アストロデザイン株式会社はリアルタイム高速デジタル処理技術を得意として、高解像度の計測、解析機器や放送機器を開発、生産しており、カメラ、レコーダー、コンバーター、波形モニター、ダウンストリームキーヤー、ラウドネスメーター、アナログ/デジタルメディアインテグレータなど、幅広いスタジオ/中継車向けの製品を揃えている。

同社のオフグリッドスタジオ ATOM' S（以下 ATOM' S）は同社がモータースポーツ事業/自動車用品事業/デザイン事業を手掛け「SUPER GT」などのレースにも参戦し高い成績を残している株式会社トムスと共同で企画、開発した受注生産用の中継車である。トヨタのランドクルーザーにビデオ機器を設置して、これ一台で映像撮影、編集、配信など全てできるようになっている。発電機も搭載しているので外部電源も必要なく、LTE の電波で配信が可能のため、携帯電話の電波が入っているところであればどこでも配信できる。また、ATOM' S はランドクルーザーをベースに作られているため、普通免許を持っていれば誰でも運転ができる。

コンパクトながらも十分な制作環境を整えている ATOM' S。それを実現したのが、数多くの Blackmagic 製品だ。

ATOM' S に は、2 台 の Blackmagic Pocket Cinema



Camera 6Kが無線で映像信号を送れるように装備されており、その映像をATOM'S内に設置されたATEM Television Studio Pro 4Kスイッチャーでスイッチングして、Web Presenterで配信できるようになっている。モニタリングには配信ステータスを確認するSmartView Duoと波形モニタリングのためのSmartScope Duoが使用されており、ルーティングにはSmart Videohub 20×20が導入された。また映像、音声のデエンベッドにはTeranex Mini SDI to Audio 12G、収録用に、2台のHyperDeck Studio Miniが設置されている。

「一人、または少人数で出かけてすぐに配信できるような、コンパクトな中継車を作ろうという企画で、ATOM'Sが誕生しました。ATOM'Sは特殊免許も必要なく、少人数で運用できるため、様々な場面で利用できると考えています。」と、同社事業本部室、事業担当部長の兒玉隆志氏は話す。

「Blackmagic Designの製品は、価格が抑えられているので、中継車の製作コストを抑えられます。また同じメーカーの製品で揃えた方がシステムの安定性も増すことも考慮してBlackmagic製



品を多数導入しました。さらに、お客様の希望で機材をカスタマイズすることもできますが、そういった場合でも幅広い製品ラインナップを持つBlackmagic製品は対応がしやすいと考えました。」

ATOM'Sが、初めて使われたのはSUPER GTのレースだという。「車両一台で配信環境が全てそろそろ長所を採用していただき、最近ではATOM'Sを使って鈴鹿サーキットで行われたSUPER GTのレースでのインタビューなどをライブ配信した事例があります。」

兒玉氏は続ける。「ATOM'Sは、コンパクトで多機能なため大きな中継車が入れないような場所で使ったり、少人数で運用したりすることが可能です。ATOM'Sがあれば、地上波で放送しないようなスポーツの試合でも、少人数のスタッフで時間と費用をあまりかけずにネット配信できます。」

最後に兒玉氏は、こう語った。「Blackmagic製品によって従来の放送関係者だけではなく、YouTuberの方々にも使っていただけるような中継車ができました。トップYouTuberと言われるような方々にとっては、十分購入を検討できる価格です。ATOM'S



によって今まで以上に様々な場所から収録が行えるようになります。さらにWeb Presenterを使うことで、どこからでも配信できます。」

会社概要

Blackmagic Designは、映画、ポストプロダクション、放送業界に向けて世界最先端のビデオ編集製品、デジタルフィルムカメラ、カラーコレクター、ビデオコンバーター、ビデオモニタリング、ルーター、ライブプロダクションスイッチャー、ディスクレコーダー、波形モニター、リアルタイム・フィルムスキャナーを開発している。Blackmagic DesignのDeckLinkキャプチャーカードは、その品質と価格で放送業界に革命をもたらした。また、エミー™賞を受賞したDaVinciカラーコレクションシステムは、1984年以降、テレビ、映画業界の中心となっている。Blackmagic Designは、現在も6G-SDI、12G-SDI製品、ステレオスコピック3D、Ultra HDワークフローなどの独創的な革新を続けている。世界をリードするポストプロダクションエディターやエンジニアにより設立されたBlackmagic Designは、現在アメリカ合衆国、イギリス、日本、シンガポール、そしてオーストラリアにオフィスを構えている。

詳細は www.blackmagicdesign.com/jp

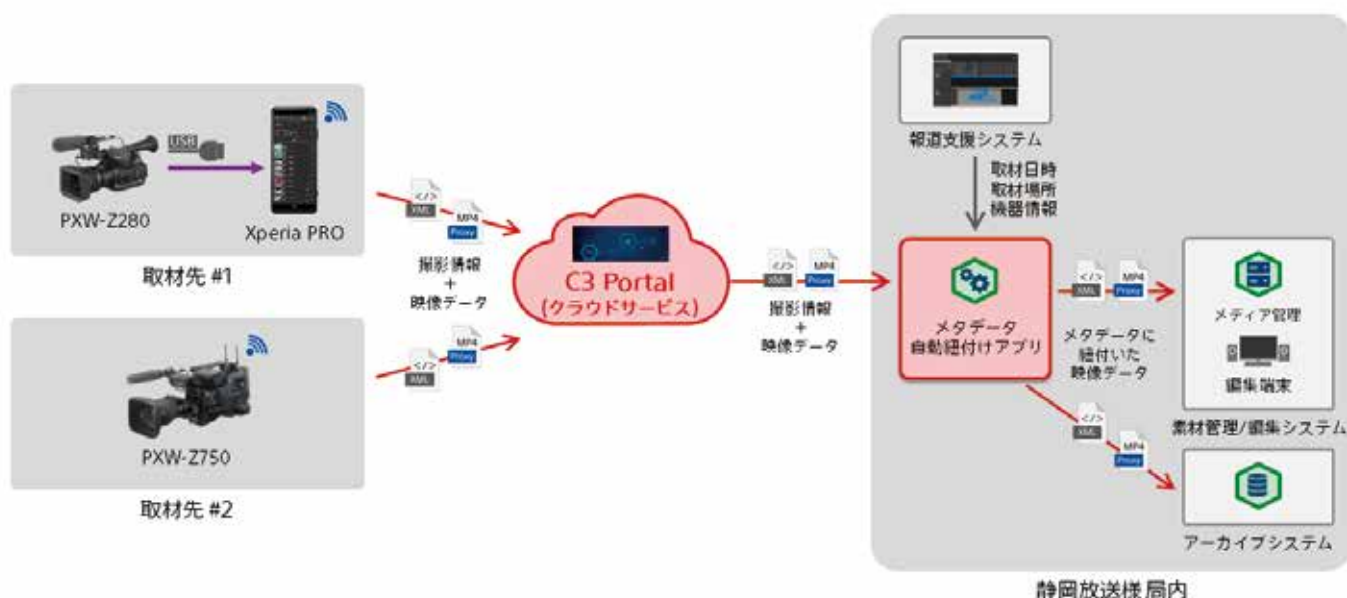
◆ソニーマーケティング：静岡放送様と「メタデータ自動紐付けシステム」およびカメラ連携クラウドサービス「C3 Portal」を活用した新たな編集ワークフローの実証実験に成功

—放送業界のDX化により、高効率・省人力での番組制作を支援—

ソニーマーケティング株式会社（本社：東京都品川区、代表取締役社長：糸川滋、以下、ソニーマーケティング）は、静岡放送株式会社様（本社：静岡市駿河区、代表取締役社長：榛葉英二、以下、静岡放送様）と、「メタデータ自動紐付けシステム」および、カメラ連携クラウドサービス「C3 Portal（シースリーポータル）」を活用した、新たな編集ワークフローの実証実験を実施した。

本実証実験では、ソニーマーケティングが独自に開発した「メタデータ自動紐付けシステム」および、2021年9月に発表したカメラ連携クラウドサービス「C3 Portal」のクラウドへのファイル転送機能を活用している。

「C3 Portal」とカムコーダー、スマートフォンとの連携により、クラウドを経由して即座に収録素材を伝送することに加え、「メタデータ自動紐付けシステム」により、アップロードした素材に事前に作成した取材メタデータを自動的に付与することで、撮影後に人手を介さず、すぐに編集作業に着手できる新たなワークフローについての有用性を検証した。



<システム構成図>

実証実験では、XDCAM™メモリーカムコーダー『PXW-Z280』、XDCAM ショルダーカムコーダー『PXW-Z750』および、プロフェッショナル向け5Gミリ波帯対応デバイス『Xperia PRO（エクスペリア プロ）』を用いて静岡県内の複数個所で撮影した映像を、「C3 Portal」経由で静岡放送様局内のサーバーへ即座に転送し、メタデータの自動紐付けを行いました。

「メタデータ自動紐付けシステム」は、あらかじめ、静岡放送様内の報道支援システムに入力した「機材情報」「取材場所」「取材日時」を、取材時のGPS情報や日時、カメラのシリアルナンバーなどと照らし合わせることで、自動的に撮影素材と取材メタデータを紐づけます。今回は、「C3 Portal」のクラウドへのファイル転送機能とあわせて運用することで、撮影開始とほぼ同じタイミングでメタデータが自動的に付与された撮影素材を、局内にて編集着手することが可能となりました。

実証実験は2021年10月18日（月）から10月29日（金）の間で複数回実施しました。150以上の収録素材を用いて検証した結果、「メタデータ自動紐付けシステム」は約98%の精度で事前に入力したメタデータと素材の紐付けを行うことができました。また、今回の実験では、「メタデータ自動紐付けシステム」による作業効率向上に加え、『PXW-Z280』と「C3 Portal」のスマートフォン用アプリケーション「C3 Portal App（シースリーポータル アップ）」の連携による、QRコード読み取りのみでのクラウド接続^(*1)や、チャンク形式でのファイル転送^(*1)による編集効率の向上も、現場の負担減に大きく寄与することが確認できました。すべての収録素材を「C3 Portal」経由で転送することができたほか、チャンク形式でのファイル転送を利用しない場合も含めて、すべてのクリップを撮影後30分以内で転送することができました。

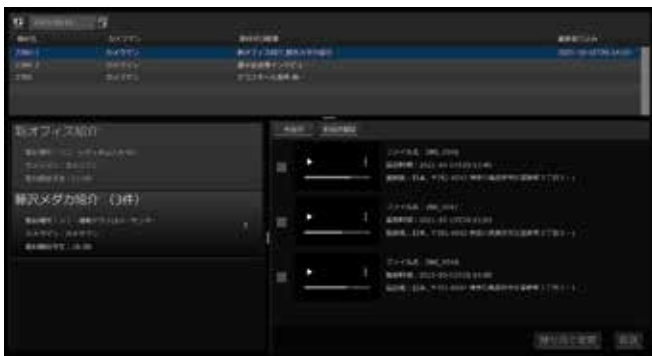
*1: 「C3 Portal」サービス開始時点では、「PXW-Z280」および「FX9」が対応予定。



<実証実験中の取材風景>



<PXW-Z280とC3 Portal Appの運用イメージ>



<GUIでの自動紐付けの確認イメージ>

■静岡放送様のコメント

今回の実証実験では、クラウドサービスを活用した新しいワークフローを体験することができました。また、今回の実験で撮影した素材を活用し、実際にオンエアまで実現することができたことにも意義があると考えています。

取材撮影においても大きな負担はなく、素材が自動的に転送される点や、メタデータとの紐付けで素材が整理される点は利便性が高く、加えてチャンク形式でのファイル転送により、先行して編集に着手できる点は即時性に優れていると感じました。

今後も、さまざまな観点から、効率化に向けた取り組みをソニーマーケティング株式会社様と一緒に検討したいと期待しています。

従来のワークフローにおいては、収録素材の転送やメタデータの入力は、カメラマンが撮影後に局に戻ってから手動で行う必要があるなど、個人への負担が大きいことに加え、編集作業の開始までに時間を要するという課題もありました。また、放送・番組制作の現場では、ライブ配信やオンデマンド配信など、配信方法が多様化する中、効率化をめざしたデジタルトランスフォーメーション（DX）へのニーズも加速しています。

ソニーマーケティングでは、これまで、ファイルベースでのクラウドソリューションの開発を進めており、異なるマイクロサービスを自由に構築可能なクラウドソリューション「Media Solutions Toolkit（メディアソリューションズツールキット）」や、効果的なメディア管理・運用を実現する統合プラットフォーム「Ci Media Cloud Services（シーメディア・クラウド・サービス）」、複数のAIエンジンを統合管理・活用する「Media Analytics Portal（メディアアナリティクスポータル）」などを提供してきました。さらに、11月10日にはクラウド中継システム「M2 Live（エムツーライブ）」の提供開始を発表し、ライブ中継でのクラウド活用も推進していきます。

今後は、本実証実験の結果をふまえ、「メタデータ自動紐付けシステム」と既存サービスの連携などを含めた、放送業界のDX化をサポートする映像制作クラウドサービスの提供を進めていきます。

■参考リンク

・映像制作クラウドサービス

https://www.sony.jp/professional/solution/cloud_pp/

・カメラ連携クラウドサービス「C3 Portal」

https://www.sony.jp/professional/solution/cloud_pp/C3_Portal/

問い合わせ先：ソニーマーケティング株式会社 業務用商品購入相談窓口 TEL 0120-580-730（フリーダイヤル）

受付時間 月～金:9:00～18:00（土・日・祝日、および弊社休業日は除く）

会社情報 ニュースリリース 環境情報 ご利用条件 プライバシーポリシー Copyright Sony Marketing Inc.